

公の施設目標管理シート（直営）

年度	平成28年度		
施設名	重要文化財旧笹川邸住宅	所管部・課	南区役所地域課
施設の設置目的	旧笹川家住宅を活用し、味方地区の歴史資料、民俗資料、その他の資料を保存し、及び公開することにより、市民の歴史及び文化に対する認識を深めるとともに、市民文化の向上に努めます。		

問合せ先	025-373-6600
------	--------------

当初予算(千円)		当初人員(人)		作成日	H28.5.20
歳入	2,396	正職員		修正日	H28.10.30
歳出	9,066	非常勤	1	評価日	H29.7.12

No.	視点	目標	評価指標					参考・補足	主な事業等	目標達成状況 未達成理由	評価	
			項目	H25実績	H26実績	H27実績	H28目標					H28結果
1	市民	ボランティアガイドの充実	現在6名のボランティアガイドを増員する。	12名	12名	11名	8名	14名	専門的知識を有する必要があるガイド業でありながら手弁当で無報酬であること、また高齢化による辞職者も現れ、人材の発掘が難しい。	広報等を通じてガイド希望者を募集していくとともに、養成講座を開設し、新規ガイドを育成する。	ボランティアガイド養成講座に10名の参加があり、そのうち9名からボランティアとしての入会意志を確認したが、実質的な活動は新年度からとなる。	A:達成(優)
2	市民	ボランティアガイドの情報交換の徹底	月1回の情報交換会を行い笹川邸に関する新しい情報の発掘に努める。	10回	10回	10回	10回	10回	ガイド業務中に新しい発見や、情報を得ることがあるので、その知識の共有を行う。			A:達成(優)
3	市民	入館記念として、笹川邸のマスコットグッズ“ささたん”(笹団子のミニチュア)を作成し、入館者に贈呈する。	入館者に記念品として“ささたん”を1人1個配布する。	約4,000人に配布	約5,400人に配布	約6,500人に配布	約6,500人に配布	約5,500人に配布	記念品の“ささたん”を媒体に笹川邸のPRを進め、入館者の拡大も図る。		入館者が前年度より約1,000人減少したため。	C:未達成
4	財務	歳入の増加	年間使用料収入2,500千円以上	2,068,500円	2,123,600円	2,516,800円	2,500,000円	2,527,700円	一時落ち込んだ使用料収入であるが、イベントの実施等により回復してきているため、昨年度(平成27年度)並みの使用料収入を維持する。	区づくり事業「来てきて笹川邸」によるイベント実施や南区PR大使を活用した広域的なPRの実施		B:達成
5	業務	防火訓練の実施	国の重要文化財である「笹川邸」の防火対策を強化する。	年2回	年2回	年1回	年2回	年3回	文化財防火デーに伴う消防訓練と併せて初期消火の訓練を行い、初動体制のさらなる強化に努める。	文化財防火デー消防訓練 南消防署の立入検査時の訓練	新規採用職員を対象として予定外に1回追加実施した。	A:達成(優)
6	人材	情報の共有化と人材育成	地域課との打合せ会議、コンプライアンス研修、情報セキュリティ研修など年3回以上実施。	—	—	—	年3回	年11回	臨時職員にもコンプライアンス等の研修を実施するとともに、所管課である南区地域課と情報交換会議を行う。	情報交換会議、コンプライアンス研修、情報セキュリティ研修など	臨時職員と地域課との懇談会やコンプライアンス研修、情報セキュリティ研修に加え、文化スポーツ係との係会議を8回行った。その内容についても臨時職員には報告等行ってきた。	A:達成(優)

取り組みについて(目標設定の考え方など)	総合評価 (評価を踏まえた課題分析・方向性など)
<p>当施設は、市単独所有の唯一の重要文化財であり、7年の歳月をかけて文政9(1826)年に再建されたもので、敷地面積が14,252.24㎡、すべての施設の延べ床面積が1,869.57㎡もある大庄屋の役宅兼住居であり、その取扱いには細心の注意が必要な施設として、今後も維持管理を行い、江戸時代の建築物を大勢の人から見てもらう目標で設定した。</p>	<p>ボランティアガイドの高齢化は大きな課題となってきた。今年度、養成講座の開催により9名のガイド登録者ができたことは大きな成果であった。</p> <p>笹川邸の入館者も前年と比して1,085人の減少となってしまった。今後も地元コミ協や地域課をはじめ関係機関とも連携し、誘客に結び付く事業展開を目指していく。また、独自でのアンケート調査をおこなっており、そこで得られた貴重なご意見等も参考にしながら、入館者増に向けて周知等図っていく。</p> <p>今後は、ボランティアの育成に努め、来館者から喜んでもらえる体制づくり(おもてなし体制の構築)についても、ボランティアの皆さんと協議を深めていきたい。また、国指定重要文化財の建造物としては唯一、市の所有でもある旧笹川家住宅の価値をPRするとともに、火災による消失や故意による毀損事案が発生しないよう、職員一丸となって文化財保護に取り組んで行く。</p>